

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
 第126回放送の概要（2017年10月28日放送）

**パーソナリティ**  
 たろう  
 （佃 由晃）  
 なか  
 （中嶋邦弘）  
 かりん  
 （妹尾優香）  
 あな  
 （岸本幸恵）



**ミキサー**  
 門ちゃん  
 （門田成延）  
  
**会計**  
 小山俊則  
  
**相談役**  
 わだかん  
 （和田幹司）

**1. ゲストコーナ（1）兵庫図書館 館長 埜下（たおした）憲司さん**

兵庫図書館は、平成8年（1996年）5月に開館した。図書館は現在指定管理が行われており、中央図書館が神戸市の直営館で他は全て指定管理で、兵庫、北、北神分館の3館をシダックス大新東ヒューマンサービスが管理している。他は別の企業が管理している。



兵庫駅南 キャナルタウンイースト2F



としょこちゃんが出迎え

兵庫図書館の蔵書は10万冊弱で、登録者数（図書カードを持っている人）は2.2万人余りである。1日平均800人が来館する。西図書館は、蔵書が10万冊弱、登録者数は4.4万人、貸出冊数が91.6万冊で兵庫図書館の貸し出し冊数35.4万冊より大幅に多い。これは立地条件の違いによるもので、垂水なども同様で、区役所が近くにあると区役所に来た人がそのまま図書館に立ち寄ることが出来るためである。兵庫図書館は駅前という好立地条件で、火～土曜日はサラリーマンも来館できるよう20時まで開館している。

来館者の状況は、小さな子供を連れてお母さん方は午前中が多く、高齢者の場合その人のライフサイクルに図書館が組み込まれており、10時の開館と共に来館し、お昼に一旦帰り、戻って来て15時頃まで

過ごしている。仕事をしている人は昼休憩時間、退社後に来館している。



図書館内



戦災記念資料室

館内に展示している「おきしお文庫」は、置塩 壽（じゅ）さんが元中学校の先生をされており、莫大な遺産を親族から相続したものを神戸の為に使ってほしいという遺言を残され、寄贈されたもの（11億円）を基に、神戸市の使い道の一つが「おきしお文庫」になったもので、小中学校に100冊置くことになった。図書館では年間数100万円を児童書に使うってほしいということで、兵庫図書館は平成14年から健康・福祉のコーナーの充実に取り組んでいたこともあり、「命・健康」というテーマで、そのお金を使い拡充している。

埜下さんが館長になったのは2年弱前で、その時にスローガンとして「カウンターに向こうへ飛び出そう」「本当の地域の図書館になりたい」を掲げた。副館長の時に百人一首に関するイベントを行うことになり、FMYYの金千秋さんにイベント告知の為に放送を使えないか相談した。単なる宣伝としての放送はFMYYとしては放送する意義はない、しかし柳原の戎神社を会場として百人一首を実施し、神社の宮司さん、埜下さん、そして協力者の地域の方の3者鼎談という形なら面白いと言われた。その時埜下さんからの声かけに応えてくれる人がいるのかを考えたが、思い浮かばなかった。その後金千秋さんから、兵庫大開小学校の元PTA会長を紹介され、学校に行くと文化祭のような催しをしており、絵本や紙芝居の読み聞かせをしているのを見て、自分達は本を扱っているプロとして存在しているが、そのようなイベントを知らず、声をかけてもらえなかった事に気づかされたことが、館長就任時のスローガンの原点になっている。



おきしお文庫

その後、父親が末期がんになったことがわかり、図書館を一度離れ、実家の広島に帰り親と過ごそうと思った。しかし兵庫図書館館長が同じタイミングで退職することになり、幹部が2人抜けると大変なので父親に相談すると、仕事を続けるように言われた。5月末に父親の病気を知り、8月に館長に就任しその間2週間に1度親元に帰った。父親は同年10月7日に他界した。父親に背中を押され、自分も強い思いがあったので、館長就任の最初のミーティングで、僕たちの図書館は本当に地域の図書館と思えるか聞いて

たところ館員から返事はなかった。兵庫図書館の運営方針の一つに、商店街と連携し図書館を活用していくというのがある。しかしどうして取り組めばいいのかわからず、本当に地域と繋がって一緒に出来ることをやりたいという強い思いがあり、自分達で色々調べてワークショップを行なった。そうすると兵庫区という地域は面白いことがわかり、日頃外に目を向けているスタッフも何人かおり、やれるのではという感触がつかめた。

最初の取り組みは、ジョイエール御旅は元々地域の役にたちたいという活動をしており、その地域応援隊の制度を活用し、ジョイエール御旅の商品を図書館に持ってきてガラスケースに展示した。ジョイエール御旅は地産地消を掲げているので、公共性のある図書館でも大丈夫と考えた。シダックスは給食もしているので、管理栄養士が監修したレシピと図書館員が勧める本をセットにした1枚のチラシをジョイエール御旅に置いた。これまで兵庫図書館はコラボレーションの経験はなく、来館者がガラスケース内の商品が、ジョイエール御旅の物とは知らなかったなどの反響があった。



地産地消の展示

地域の方との直接的な繋がりが出来たのは、兵庫駅北で開催されていた「空き地カフェ」の3年目に参加したことである。参加についてコーディネーターの山下香さんと話した時に、6月に大きなお祭りをするのでその時にデビューしたらと言われ、初めて出張図書館を始めることになった。初めて参加した時にギターを弾いている人、ワークショップをしている人もおり、最終的に図書館の場所は歌って踊り、読み聞かせを即興で行う場所になった。それを見た参加者から、元気のある図書館という印象を持ってもらえた。空き地カフェは出店者同志のミーティングを重ね、3年目を迎え方向転換する必要があるということでしばらく休み、先般、防災をテーマに新しく復活した。



空き地カフェ

今年8月28日に兵庫駅南公園を初めて使った「こどもフェスタ」が開催され、埜下さん繋がりのメンバーも多く参加した結果、フェスタには数百人の家族が参加し大いに盛り上がった。

また、空き地カフェに出店たことがきっかけで、埜下さんに声がかかるようになり、祇園神社の縁日のミーティングに参加出来るようになり、そこは色んなアーティストが参加しており、こどもフェスタに繋がる画家の田岡和也さんと知り合いになった。

## 2. ミュージック：「空へ」アーティスト 岡田修

曲は、ワールドミュージックインターネット放送協会（WMI BA）より提供いただいた、アーティスト小川悦司さんによる「Oceano」です。

### 3. ゲストコーナー（2）

「3.11 絵本プロジェクトいわて」との交流は、祇園神社縁日の実行委員長の画家高濱浩子さんから、絵本プロジェクト事務局長の赤沢千鶴さんとの会食に招かれ、絵本プロジェクトの成り立ちと活動内容を伺った。このプロジェクトは東日本大震災発生9日後に立ち上がったもので、元IBBYの理事で絵本の名編集者として知られている末盛千枝子さんが、震災の前年に東京から故郷の岩手に帰られ、そこで震災にあった。末盛さんはIBBYの経験から、戦時下や災害に遭遇した時、子供達が一番安心するものとして子ども達の膝の上で絵本などを読んであげる事が効果が大きいので、同様の事を岩手でも出来るように絵本を被災地に届ける事を考えた。末盛さんは本やメディア関係の知人が多く、盛岡の中央公民館がバックアップし、絵本プロジェクトが生まれた。絵本は最初集まらず、末盛さんは自身の本を発刊している関係で、メディア関係の知人が多い、代官山のクラブヒルサイドの代表前田玲さんに依頼し、末盛さんからのメールを1500人余りに送信してもらった、日本経済新聞に取り上げられたことで、活動が大きく知られるようになった。最終的に絵本は24万冊集まり、中央公民館に日本初の盛岡市婦人ボランティア野の花会の協力で仕分け作業が行われた。絵本の読み聞かせは中央公民館、中央図書館、保育士達のボランティアにより行われた。

（注）IBBYは、1953年にスイスのチューリッヒで設立された国際児童図書評議会(International Board on Books for Young People)の略称。IBBYは、子どもと子どもの本に関わるすべてのひとなつなく世界的ネットワークとして、現在本部をスイスのバーゼルに置いて活動している。

盛岡市中央公民館の絵本サロンは同様の取り組みをしているので、その絵本サロンを見学したいと思った。昨年12月絵本サロンを訪問し、また岩手沿岸部の震災被害の大きかった地域を案内して頂いた。復興がかなり進んでいると思っていたが、実際には重機がいたるところで動いているのを見るとどこが復興かと思った。復興が進んでいる所もあるが、全体としてはまだまだ時間がかかるという印象であった。図書館としては岩手を訪問したことを、3.11絵本プロジェクトの活動軌跡と被災地の状況写真をパネルを使って紹介し、更に関わりのある本も紹介した。また絵本サロンを図書館内で再現しようと思い、クイズラリーや精巧な紙人形を置いて雰囲気づくりをした。展示は好評で当初予定を越えて2か月間展示した。来年3月には同様の展示を計画している。3.11絵本プロジェクトいわてプロジェクトは10年間の計画で続けられる。



絵本プロジェクトの皆さん（中央は埝下さん）



2016年12月時点の嵩上げ工事（陸前高田）



絵本サロンの展示（赤沢さんと図書館スタッフ）



岩手県の被災地訪問の図書館内展示

11月1日～5日に開催される「神戸文化祭」は、兵庫図書館としては昨年繋がりのお出来た土日屋さんから知った。神戸文化祭新聞があり、キャッチフレーズは「ナンデモナイヒオメデトウ」で、「このまちの これからのトモダチに 会いに行こう お話に行こう」が神戸文化祭を説明するものになっている。「ナンデモナイヒオメデトウ」は元は不思議の国のアリスにでる言葉で、神戸文化祭は特殊な成り立ちをしていて、何かイベントをする人をフラッガー、期間中フラッガーを訪ねる人をハンターと呼んでいる。フラッガーはイベントをやる人だけでなく、日常自分がやっている仕事を公開する人も参加出来る。自分達にとっての日常は他人から見ると特殊だったり、非日常だったりする。それぞれの非日常は自分には日常だが、他人から見ると面白かったり楽しい事だったりする。

# 神戸文化祭

KOBE BUNKASAI 2017



2017.11.1 (Wed.)～11.5 (Sun.)

神戸文化祭は1か所に集まってやるのではなく、それぞれのフラッガーを訪ね歩くことになる。今年のフラッガーは現在101に達している。神戸市全域と大阪、香川からも手をあげている。フラッガーはHP及び神戸文化祭新聞に掲載されている。101か所にスタンプを置き、30個集めると50人まで景品がもらえる。兵庫図書館は特別な事をしていないが、読書週間行事を行っているので、テーマ「読む旅に・知る旅に」に関わる展示をしている。兵庫図書館は神戸市で唯一公式キャラクターの「としょこちゃん」があり、神戸市のワケトンのキャラクターを企画したザ・ゴールドロケットスターが、兵庫区で仕事をしている関係で作ってもらった。昨年20周年記念で作ったので、今年は作者の山崎秀昭さんにお越し頂き満1歳の誕生日会を11月3日に開催する。

今、図書館はスマホの普及などでわざわざ図書館を利用する必要はないと考える人が増えている。このような風潮に対し図書館の今後の取り組みに関しては、市立図書館は平成26年度から始まった、第3次神戸市子供読書活動推進計画（新・こうべっ子読書活動推進プラン）に基づき取り組んでいる。また神戸市の小中学校に学校司書を1名置く施策を進めている。図書館としては学校をバックアップしたり、地域に出向き幼稚園や児童館で読み聞かせをしたり、子供と本が初めて出会う場を作るため、4カ月検診時に

ブックスタートとして本との関わり方を紹介するなどをしている。また図書館に出来ない人、存在を知らない人にも図書館から出向いて行くことで存在を知ってもらい、一度来て頂くと本棚を覗いてもらうと何らかの出会いが生まれると思う。セレンディピティという言葉は、偶然の幸運な出会いという意味で、そういうものを図書館内を歩くことで発見すること、出会うことが出来る。また本と人が出会うだけでなく同好の士と出会うこともあり、図書館と関わりのある人を結びこともある。

最近はやりのカフェを併設したような図書館は、賛否両論ある。カフェの好きな人にはいいが、本を読みたいじっくり勉強したい人には好まれないと思い、最終的には地域住民が決めることであると思う。

最近リビングライブラリー（生きている図書館）という言葉が使われ始めている。社会の偏見を減らすために始まった運動で、心身の難病を持った人、セクシャルマイノリティの人などから話を聞くもので、貸し出すのは本ではなく人であるところがユニークな取り組み。このような体験をした後、本を読んでもらうことで新しい発見に繋がると思う。インターネットから得られる知識は体系的に整理されたものではなく、一方、本を通じて体系的に知識を得ていくことには大きな可能性が潜んでいる。

## 5. 地域瓦版

- ・下町芸術祭 2017 が 11 月 3 日～25 日まで開催されます。空き家、空き店舗、空き地、路地、商店街、長田の町を舞台に、テーマ「境界の民」を表現し、土地の可能性を開く芸術祭です。
- ・兵庫高校OB（69 陽会）の皆さんが同窓会をきっかけに 2011 年から活動 I NA2011 のライブが 11 月 26 日、ライブハウス神戸 108 で開催されます。
- ・11 月 11 日神戸ビジョンフェスティバルが、10 時 30 分～16 時 30 分、神戸ハーバーランドスペースシアターで開催されます。



## 神戸地域ビジョンフェスティバル

平成 29 年 11 月 11 日（土）



- 時間 10:30～16:30
- 場所 神戸ハーバーランド スペースシアター
- 内容 国際色豊かなステージ（演奏、踊り等）  
“子ども楽しめる”体験&参加&展示プー

ステージ	ブース
中音調、二部、シャンソン、ジャズ、和太鼓、沖縄民謡など、国際色豊かな演奏家たちによる素敵な音色や歌声、踊りなどをお楽しみください。	歴史や元町に関するクイズ、科学実験教室、キーホルダー作り体験、きんちやく作り体験、ハンカチに絵を描くワークショップ、健康体調工コや防災について学んだり、六甲山の自然、神戸の歴史・祭りを知る展示ブースなど。淡路産米の展示販売もあります。はばタンにも会えるよ！

- 歴史ショートツアー ①13:00～(湊川神社参観) ②14:30～(旧相生橋界隈) [参加無料]
- 健康体験 ①11:00～12:00(歌レク体験) ②13:00～14:00(フェアエクササイズ) [参加無料]
- キーホルダー作り体験 ①11:00～12:00 ②14:00～15:00 (参加費 200 円)
- きんちやく作り体験 ①13:00～14:00 ②14:00～15:00 ③15:00～16:00 (参加費 200 円)

※すべて当日各ブースで参加受付

**神戸地域ビジョン**  
人々が笑い、喜びと感動が共有できる  
「楽しいまち・神戸」  
神戸地域ビジョン委員会では、公募により選ばれた第 8 期 151 名の委員のみなさんが「楽しいまち・神戸」の実現をめざして、多様な

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記 URL で視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>